

はぐあっぷ

「地域の拠点づくり・潜在的リスクへのアプローチ」事業

予算額:11,121千円

1.目的

子育て世帯の身近な相談の場を確保するとともに、見守りが手薄な対象へのアプローチを行い、潜在的リスク把握と必要な支援につなげることで、虐待による死亡事案ゼロの状態を維持する。

2.内容

- 地域の拠点(地域集会所等)に子育ての専門職(非常勤の保育士、看護職など)が定期的に巡回し、子育て世帯の身近な相談の場を確保する。また、こどもや子育て世帯を見守る地域ボランティア等への情報提供を通じて、地域における支援力の向上を図る
- 乳幼児健診の狭間期である2歳6か月児を対象に、全家庭への質問書送付等によるポピュレーションアプローチを実施する
- 要対協登録事例の中で特に潜在的リスクが懸念される保育所・幼稚園等の所属のないこども、特定妊婦、乳幼児健診未受診者、保育所・幼稚園等の所属はあるが状況確認が不十分なこども及び要対協登録前の段階にある事例という見守りが手薄な対象へのアプローチを行い、潜在的リスク把握と必要な支援につなげる
- 地域拠点での相談や上記対象者へのアプローチを行うなかで、必要に応じて保育所申請や療育利用手続きのサポート、ファミリーサポート事業や一時預かりの利用調整を行い、確実かつ速やかに支援につなげることでリスクの低減を図る

3.令和4年度事業指標・実績

指標:子育てに関し、地域で日頃から気軽に相談できる場がある状態100%

実績:子育てに関し、地域で日頃から気軽に相談できる場がある状態100%

実績内容

- 地域の拠点等における子育て相談会や子育てサロン、地域見守り支援拠点を巡回し、保護者からの相談を受けるとともに、気になるこども等について地域ボランティアとの情報交換を行っている
- 2歳6か月児に対し、質問票送付によるポピュレーションアプローチを実施。必要に応じ保健師によるアプローチを実施

成果と課題

- 地域の拠点づくり等の取り組みにより、子どもや家庭について新たに状況を把握し、必要な支援につなげリスク軽減を行った。また、地域に専門職が頻繁に巡回することにより、地域の支援者との連携が強化され、より一層情報を得られるようになっていくとともに、地域の見守り力や支援力の強化につながっている

- 2歳6か月児へのポピュレーションアプローチにより、令和2年度～4年度の3年間で2,644件の子どもや家庭について新たに状況を把握し、そのうち823件については、保健師が連絡を行うなど支援を実施した

4. 令和5年度事業内容

指標：子育てサロンなどの利用者に対するアンケートにおいて、身近な地域で相談できる場があって良かったと回答する人の割合 75%以上

- 支援が必要であるが支援に結び付きにくいこどもや家庭など、地域と情報共有し、必要な支援につなげる取組を継続して実施する
- 2歳6か月は、成長発達が著しく、第1次反抗期を迎えるため、保護者も子育てについての悩み・葛藤が生じやすい時期であることから、ポピュレーションアプローチを継続して実施する

現在の状況(6月末現在)

- 巡回相談については、12地域で地域見守り支援事務所や子育てサロンの巡回、子育て何でも相談会の開催など行うほか、保育所、幼稚園についても巡回し情報交換を行っている
- 2歳6か月児に対し、質問票送付によるポピュレーションアプローチを実施中